

プラごみ問題の現状

・プラごみが海の環境に与えている影響とは…？

ペットボトルや食品の容器など、私たちの生活に欠かせないプラスチック製品ですが、近年人間が廃棄したプラスチックが海や沿岸部に流出する海洋プラスチック問題が深刻化しています。海岸を埋め尽くすプラスチックごみ(以下プラごみ)や鼻にプラスチックストローが刺さった痛々しいウミガメの画像などを SNS 等で見た方も多々と思います。

プラスチックは、化石燃料由来であるため容易に分解ができず、回収するまでゴミとして残ってしまいます。なかでも 5 mm以下の小さい「マイクロプラスチック」は多くの海洋生物に食べられ、生態系の破壊や人体への健康被害などを引き起す可能性があり、問題となっています。

・日本人の一人あたりのプラごみ排出量は世界二位の多さ！

2018年6月に発表された [UNEP\(国連環境計画\)の報告書『SINGLE-USE PLASTICS:A Roadmap for Sustainability』](#)によれば、日本は一人あたりのプラスチック容器包装の廃棄量は、米国に次いで多い世界第二位です。このデータを見ると、多くのプラごみを排出している我々日本人の取り組みが重要であることがわかります。



プラスチック包装廃棄物の発生量(2014年)
 (赤色グラフ) 一人あたりの廃棄量(kg/人)
 (黄色グラフ) 総廃棄量(百万トン)

出典) UNEP(2018)「SINGLE-USE PLASTICS:A Roadmap for Sustainability」p.5

プラごみを減らす生活 3Rの再確認

日常生活で出るプラごみを減らすための第一歩として、皆さんご存じの 3R(Reduce リデュース:減らす, Reuse リユース:繰り返し使う, Recycle リサイクル:再資源化する)の再確認をしてみましょう。

ここでは3つの例を挙げますが、みなさんも3Rのための行動をもう一度考えてみてください！

・「マイ〇〇」を持ち歩く(Reduce)

使い捨てではなく繰り返し使えるいろんな「マイ〇〇」を持ち歩いてみましょう！今年7月のレジ袋有料化によって持ち歩く人が増えた「マイバッグ(エコバッグ)」、ペットボトルの代わりに「マイボトル」、割り箸削減のためのマイ箸に加えて「マイスプーン・フォーク」…などなど。デザインにこだわっておしゃれな「マイ〇〇」で特別感を味わうのもあります。みなさんもぜひお気に入りの「マイ〇〇」を見つけて使ってみましょう！



お気に入りのマイ〇〇を見つけよう♪

・詰め替え可能な製品を使う(Reuse)

ゴミ削減のために詰め替え可能な製品を積極的に選びましょう！ドラッグストアでは洗剤やリンス・シャンプー、文房具店ではボールペンやテープのり等の様々な詰め替え可能な製品が並んでいます。こうした分野では、各メーカーの努力の成果もあり、数多くの詰め替え可能な製品が発売されています。長期的に見ればお金の節約にもなるので、詰め替え可能な製品を見かけたら購入を検討してみてもいいかもしれません。



積極的な詰め替え商品の選択を！

・プラごみリサイクルを行う(Recycle)

日本では容器包装リサイクル法により自治体が業者にリサイクルと再商品化を委託する仕組みが整備されています。まずは各自治体の規定に従ってごみの分別をしっかりと行いましょう！他にもメーカー主導でさまざまなリサイクルが実施されており、例えば食品トレー製造の株式会社エプコが全国のスーパーを中心に発泡スチロール製トレー等の回収ボックスを設置している「[食品トレー等小売店頭リサイクル](#)」などがあります。いろいろなリサイクルの選択肢を意識して実践していきましょう！



このような回収ボックスを近くのスーパーで見かけた方も多いのでは？
(筆者撮影)

レジ袋有料化が始まった今こそおすすめのエコバッグ 2 選

エコバッグって忘れがち？

買い物に行った際に「レジ袋をご利用ですか？」と聞かれるのは今ではおなじみのフレーズです。皆さんの中にも“あちゃー、玄関にエコバッグ忘れてきた”という苦い経験をお持ちの方がいるのではないのでしょうか。筆者もその1人で、5円も出してレジ袋を買う気になれなかったので、手持ちのかばんに詰め込みその場をしのぎました…。筆者が思うに、エコバッグは2つの難点があります。使用後に畳んでカバンに戻さなければいけないことと、布製なのでかさばることです。ここである商品を見つけました。それは [INBENTO\(インベント\)](#)のエコバッグというものです。アンジェ web shop で購入することが出来るこの商品の良いところは重さが24gと軽く、クシャッと畳めばサイズも鍵よりも小さいのに、広げればマチ付きでしっかりとした 10L のエコバッグになるところ。また、カラビナがついているので鍵ケースやバッグ、ベルトループに常備することも可能です。価格は税込み1,408円、色はグレー、カーキ、ネイビーの3色から選べます。いつどこで必要になるかわからないエコバッグ。1つでも身に付けていれば安心できるはずです！皆さんもおひとついかがでしょうか？

商品の販売サイトは[こちら](#)から



© 2020 アンジェ web shop



© 2020 アンジェ web shop

生鮮食品は袋が濡れる原因に…？

スーパーで足のはやい魚や肉、冷凍食品などを買った時、氷をつけても布製のエコバッグだと長くは保冷が効かず、周りを濡らしてしまったりもします。そのような悩みを解決するのが、裏地が銀色のシートになっている保冷バッグです。今回は、リュックサックタイプの保冷バッグを紹介します。リュックサックなら手に袋が食い込むこともなく、重い肉や魚、生鮮食品も楽に運べます。加えて、たいていの商品は防水加工が施されているので、水が漏れることは心配無用です。これからは、買い物に行くときはぜひ保冷リュックを背負って行ってみてください。写真は au PAY マーケットで販売されている保冷リュックですが、オンラインサイトで「保冷リュックサック」と検索をかけると、いまや数千もの商品が出てきます。皆さんも自分の買い物スタイルに合った保冷リュックサックを探してみたいはかが？



リュックタイプ保冷バッグの例

出典) [au PAY マーケット 保冷リュック](#)

千葉大学でのプラごみ削減の取り組み

○レジ袋有料化とレジぶー基金

千葉大学では環境 ISO 学生委員会の発案により、2006 年度から大学生協においてレジ袋の有料化(1 枚 5 円)を実施しています。これにより、現在の千葉大生協の物販店舗におけるレジ袋の平均購入率は 0.5%未満となっています。

これまでレジ袋の購入に充てられていたお金と、レジ袋の販売収入を「レジぶー基金」として生協から拠出いただき、集まった基金で環境 ISO 学生委員会がさまざまな環境活動を実施して、レジ袋削減にご協力いただいた学内の学生や教職員に対し還元しています。例えば、昨年度は「レジぶー基金」を割引に充て、原価 720 円のエコバッグを、学生にも買いやすい価格 200 円で販売する「れじぶー企画」を行いました。プレスリリースは [こちら](#)。



昨年度「れじぶー基金」にて割引販売したエコバッグ

○エコストロープロジェクト

千葉大学では環境 ISO 学生委員会が企画し、学内のプラごみ廃棄量を減らし、学生・教職員の意識の啓発を図る目的で、2019 年 7 月に千葉大学生協の協力のもと、学内ライフセンターにて 500mL 紙パック飲料の購入時に無料で配布されているプラスチックストローの配布を一時停止し、代わりに紙ストローを1本5円で販売する実証実験を行いました。

成果として有料化により 48.6%の利用者がストローの購入を控えたため、ストローの使用量が半減した一方、今回の実験で使用した紙ストローは歯ざわり等の悪さから利用者からの不満の声が多かった点などの課題がありました。そのため、学生委員会が中心となって紙ストロー以外のエコストローを検討し、決定したエコストローを来年度以降ライフセンターにて本格導入する予定です。プレスリリースは [こちら](#)。



2019 年の企画のポスター